

JC PRESS 新春号

発行所/社団法人 京丹後青年会議所 編集/広報委員会

社団法人 京丹後青年会議所 2012年度スローガン

まちを照らす光となれ!

～自らの成長が地域に希望を与える～



JCI 社団法人 京丹後青年会議所
2012年度理事長 沖田真奈美

「新年ごあいさつ」

あけましておめでとうございます。
平素は私も社団法人京丹後青年会議所
に對しまして、温かいご支援・ご協力を賜
りありがとうございます。

昨年と同様に家族揃ってお正月を迎えら
れることに、心から感謝した方々も多かつ
たと思います。私もいつもと変わらぬ日常
を当たり前のようにならざるを得ないが、い
かに幸せでありたいことなのだろうか、と
改めて感じながら新年を迎えさせていた
きました。この穏やかな日常がずっとこの
先も続くように、そしてこのまちがもっと
明るく、輝くまちとなるように社団法人京
丹後青年会議所メンバー一丸となって地域
の発展に貢献したいと思っております。

今年は4年前に京丹後青年会議所ホーム
ページへ移行した京丹後青年会議所新聞を
再び発行することと致しました。東日本大
震災以降、形あるものではなく、目に見え
ないものに価値を見出し、家族や地域の
人々との絆を深めることが一層強く求めら
れていると感じます。この新聞の発行によ
りホームページの閲覧者だけではなく、世
代を超えた京丹後市内の幅広い方々と繋
がりを持ち、手を取り合い、共に豊かなま
ちづくりを進める一助とすることができると
考えております。

本年度も京丹後市の皆様のご理解とご協
力をお願い申し上げます、新年のご挨拶にか
えさせていただきます。

JC PRESS 新春号

理事長 所信



はじめに

明るい豊かな社会だと感じ
る時は果たしてどんな瞬間な
のでしょうか。

青年会議所の目的は「明る
い豊かな社会」を築くことで
す。物質的に豊かで便利な社
会になった今、私達の役割は
心の豊かさ、精神的な豊かさ
を醸成することへ移行してい
ると考えます。特に、目の前
の全てが破壊され、命のほか
なさを日本中が痛感した東日
本大震災以降、形あるもので
はなく、目に見えないものに
価値を見出し、心の繋がりを
より求めるようになっていま
す。そしてどんな困難をも乗
り切ることが出来る強さと英
知、すなわち生き抜く力を養
うことが問われていると考え
ます。

地域の発展のために 自己の成長を図ろう

地域の発展のために何が
できるのでしょうか。

少子高齢化・人口減少が急
速に進む京丹後にとって、ま
ちの将来を大きく左右する私
達青年層の役割は大きく、重
責を担っています。まちの將
来のために、研修を通じて自
己研鑽に力を注ぎ、会員一人
ひとりが目に見えない強さや
英知、そして生き抜く力を高
めていきましょう。一度身に
付けた英知はどんな状況にな
っても、再び立ち上がれる強
さ、つまり生き抜く力を与え
てくれるはず。ひととづく
りはまちづくりと言われま
す。自己の成長なくしてまち
の発展は望めません。地域の
発展、活性化のために、まず
は自分自身を磨きます。

地域のネットワーク づくりを進めよう

私達は地域の方々と確かな
絆を築けているのでしょうか。

今は心の豊かさ、精神的な
豊かさが求められています。
目に見えないものを大切にし
なければならぬと誰もが気
づいているはず。そんな
中、今後私達が、一層育んで
いくべきことのひとつが「人
人との絆」ネットワークだと
考えます。形式に拘らず、
柔軟な体制を取り、45周年ピ
ジョンの提言にあるように、
「地域で頑張る人達」とネッ
トワークを積極的ににつくり、
連係を強化していきましょう。
夢を語りその実現に向かっ
て翌日には動き出せる行動力
のあるまちを創るには、行
政を始め、他団体とのネッ
トワークづくりが必要不可欠
であり、夢の実現に向かう第
一歩となるはず。

常に前向きの変化を し続けよう

私達は常に進化し続けてい
るのでしょうか。

青年会議所の46年に渡る歴
史と伝統を守らねばという責
務と時代に即した新しいスタ
イルが求められているという
現実を前に、まさに時代の転
換期にあると実感していま
す。組織も生物と同じよう
に、生き残るために環境や時
代の変化に対応し進化し続
けなければなりません。そのた
めには「今のままで良いの
か」と問い続ける文化を育
み、イノベーションを繰り返
さなければなりません。進化
を続ける団体は魅力的な組織
となり、自然と人々を惹きつ
けるものです。そんな魅力あ
る青年会議所を創り上げてい
きます。

青年らしく明るく元 気に行動しよう

私達は地域の方々へ未来へ
の希望を示せているのでしょ
うか。

青年会議所が40歳までの青
年によって構成されている理
由の一つは、若さゆえの柔軟
な英知と勇気、情熱、そして
それを実行する行動力とスピ
ードがあるからです。困難に
考えず、英知を振り絞り、労
を厭わず、不可能も可能にす
る勇氣と行動力を持ちます。
時代の移り変わりが激しい現
代ではスピード感も問われま
す。良いと信じたことはすぐ
に実行します。自分自身の成
長によって生みだされる自信
も、夢を実現させる行動力を
後押しすると信じます。「青
年らしさ」を大切に、自らの
限界を定めず果敢に取り組
み、情熱を持って前向きに行
動する姿勢を地域の方に見て
いただきます。その姿をお見
せすることが地域をリードす
る青年の集まりである「青年
会議所」の役目でもあり、未
来への希望を地域の方に抱か
せるのだと信じます。

子ども達に語り継げ る大人になろう

私達はこのまちの魅力の子
ども達に語り継げる大人でし
ようか。

丹後の美しい海、古代丹後
王国に遡る悠久の歴史、40箇
所に上る豊富な温泉や海
の幸、山の幸は多くの方を魅
了してきました。その魅力を
子ども達に語り継ぐことは私
達大人の責任です。また、自
分のまちについて知識を深
めることはまちづくりやまち
の発展に欠かせないことで
す。これまで積み重ねてきた
経験を活かしながら諸団体と
連携し多くの学びや気づきを
私達が得ることで、子ども達
にまちの魅力を語り継げる大
人になれると確信します。

むすびに

『多くの影を取り除くには
一筋の陽光で十分である』
聖フランシス

中世ヨーロッパの最も著名
な聖人の一人であり、国や教
派を超えて世界中の人々から
愛されている聖フランシス
は、困難な中にあってもたっ
た一筋の光があれば人は未来
への希望を見ることができ
ると説いています。環境、経
済、震災、高齢化等多くの難
しい問題を抱えています。40
歳までの限られたこの時間
を、青年らしさを大切に、明
るく元気に行動します。そし
て「あなたのお陰で勇気づけ
られた」と言われるような、
一筋の光となるよう自らを磨
き、まちを照らす希望の存在
となるよう活動します。

JC PRESS 新春号 巷談

昨年3月11日、日本観測
史上最大の地震が発生、
10mを超える津波が沿岸
部のまちが襲われるな
ど、東北と関東の広大な
範囲に被害をもたらした。
誰も自然の猛威に
呆然とし、これまで平穩
に人々の生活があったま
ちが容赦なく壊れ行く現
実をリアルタイムでテレ
ビやラジオを通じて体感
し、恐怖と絶望を味わつ
た東日本大震災から早や
一年が経とうとしている
▼地震大国「日本」とよ
く耳にするが、誰が今回
のような事態を予想して
いたのだろうか。世界に誇
れる日本の防災システム
を持ってしても自然の猛
威を前に歯が立たなかつ
たことは事実である。今
後、更なる国や地方自治
体での防災システムの構
築や各地域の防災組織と
の連携が必要になってく
るのではないかと私達が
生活する京丹後市でも、
災害時における様々な防
災対策はなされている。
だからといって、安全や
安心に對し、「大丈夫だ
ろう」という過信は禁物
だ。行政や自主防災組織
と住民がより密に連携を
図り今一度、災害対策に
関心を持つことは必要だ
ろう▼また、自分の住む
まちや近所にも関心を持
ち、地域の人々と顔を合
せ、触れ合うことも大切
だろう。そうすること
で、いざという時に助け
合える関係づくりができ
るのではないだろうか。
昨年の漢字が「絆」であ
ったように、今年も家族
や地域の方々との絆をも
う一度見直し、深めてい
けるような年になりたい。

裏面
「新春対談」
をご覧ください

JC PRESS 新春号 対談 新春

地域の ネットワークづくり

(社)京丹後青年会議所では、地域で頑張る人達とネットワークを積極的に作り、更に絆を深めて参りたいと考えています。広報委員会では、行政・各種団体と互いの思いを共に語り合う場を設け、その様子を市民の皆様にも広く発信して参ります。第一回目の新春号は、京丹後市の中山泰市長と、当青年会議所理事長 沖田真奈美との対談の内容をお届けします。

沖田 本日はお忙しい中お時間をいただきましてありがとうございます。また、京丹後青年会議所の活動にいつもご理解とご協力をいただいております。と、心より感謝申し上げます。

さて、2010年の京丹後青年会議所45周年事業の時に45周年ビジョンを掲げさせていただきました。その中で、「このまちで頑張る人達と手を取り合っ

市長 大変素晴らしい大切な視点だと思います。まちを活性化していくためには何が必要かという時に、住民の皆様、または住民の皆様方のつくるグループが、まちづくりを積極的に、主体的にやってくかというところが大変重要だと思います。その中で、例えば、住民のグループ同士が絆を持って接すること、自分達では気付かなかったことを改めて気付かせてもらえ、新しい発展の可能性を気付かせてくれるというようなこと

青少年の育成について

沖田 市長もご存知かとは思いますが、小学生ウルトラクイズという事業をやっております。今年で5回目を迎えます。これは、子ども達に、自分達の近所のことだけを知るのではなく、もっと京丹後市全体を視野を広げて欲しいという思いからスタートしたものです。そのためには、学校で勉強するだけではなく、実際の現場に行き、見て、触れて、体感するということが大切で、毎年丹後海陸交通様や教育委員会様のご後援をいただきながら開催をさせていただいております。今年

は5年目という節目の年でもあります。私達だけではなく、他の諸団体の方々のご協力も仰ぎながら少し規模を拡大したいと思っております。そこで、このように私達も青少年の育成には色々とお知恵を絞っているわけですが、市長の青少年育成についてのお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

市長 そうですね。子ども達も、地域にとっても大切な宝です。ですから、子ども達には、京丹後のことを知って欲しいですし、好きになって欲しい、

大好きなふるさとという思いをたくさん重ねて欲しいと思います。またそのことを通じて、将来この京丹後で頑張つてみようという礎を築くことにもなるでしょうし、何より、ふるさとが子ども達を大きく豊かに育んでくれると思

います。それと同時にふるさとにも、子ども達から、まちに對する愛情を受けることで益々活気づくであろうと思

います。また子ども達には学

力・体力・精神力もそうですが、大切なことは大きく強く

しなやかに個性に応じて伸び

ゆく力を育んでもらいたいと思

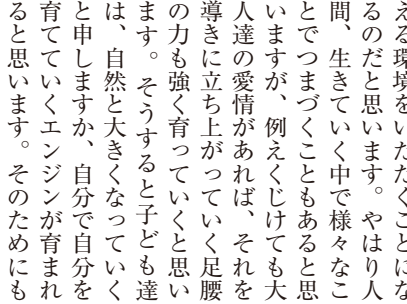
います。その上で私が大切に

に思うのは、家庭はもとより

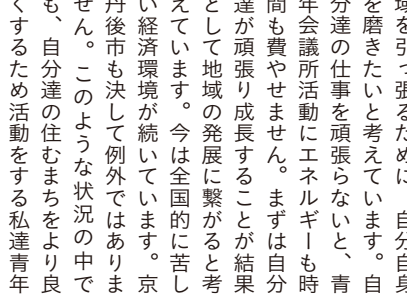
地域の大人達が子ども達の無

限の可能性を信じてあげること

だとおもいます。それと同時に、地域の子どもの成長を願う限り愛情を注ぎ続けることがとても大切であると思



2011年9月例会「三者交流会～京丹後の未来の為に～」京丹後市、京丹後市商工会青年部の皆様に参加いただき、三者による意見交換会を開催。



2008年～継続「小学生ウルトラクイズ in 京丹後」京丹後市教育委員会の後援、多くの地元企業の協賛をいただき、市内約100名の小学生が参加。丹後の文化や歴史をクイズ形式で学ぶ。



京丹後市長 中山泰氏と京丹後青年会議所理事長 沖田真奈美氏との対談の様子。

致しまして、それをバックアップさせていただきますながら市と住民の皆様が協働して様々なまちづくりができる環境整備もしていかなければならないと感じております。

沖田 私自身も子どもに限らず大人にもそういった力を身に付けて欲しいと思っております。自分

に自信があれば、くじけるよう

なことがあっても自分は大丈夫

だと思える力も出てくると思

うので、精神的なたくましさ

を身に付けて、その姿を子ども

達にも見せたいと思っております。

今年度はウルトラクイズも更

にバージョンアップしたいと思

いますので、引き続きご支援を

よろしくお願い致します。

沖田 青年会議所では自己研

鑽の研修事業、地域のリーダー

を育成するトレーニングを重点的に

大人達は、子ども達には無限の可能性があると、限らないことを信じて接し、限らない真の愛情を注いでいくことが一番大切だと私は思います。そうすることで子ども達の伸びゆく力が育まれていくのではないかと感じます。くじけた時に立ち上がれるかどうかがとても大切だと思います。最後は立ち直れる力の源は、最後は周りの人の真剣な愛情だと思

います。そういったものがあれば、自分の可能性を感じながら立ち上がり伸びていくのだと思

います。壁が高ければそれ

からといってすぐに諦めるの

ではなく、若い皆さんには挑

戦心や、諦めない心を持って

いただいて、壁が高ければそ

れは乗り越えた時に大きく発展

するのだと思っております。壁が高い

からといってすぐに諦めるの

ではなく、若い皆さんには挑

戦心や、諦めない心を持って

いただいて、壁が高ければそ

れは乗り越えた時に大きく発展

するのだと思っております。壁が高い

からといってすぐに諦めるの

経済人に、今後期待されること

がございましたらお願いしま

す。また京丹後市に住む若者

に、エールをいただけますで

しょうか。

市長 大きく発展しよう

すればするほど、その前の壁

というものは高いと思いま

す。壁が高いからこそそれを

乗り越えた時に大きく発展す

るのだと思っております。壁が高い

からといってすぐに諦めるの

ではなく、若い皆さんには挑

戦心や、諦めない心を持って

いただいて、壁が高ければそ

れは乗り越えた時に大きく発展

沖田 ありがとうございます。現在、京丹後青年会議所のメンバーは少人数ですが、ポテンシャルは非常に高く個性溢れるメンバーが揃っています。これだけの人がいるのであれば、このまちは大丈夫だといつも感じております。感覚的に、あと少しで良い方向に向かえるように思うのですが、そのきっかけを見つけての何年も悪戦苦闘しているような気がします。

市長 悪戦苦闘の過程を良い意味で心の中で半歩離れて楽しまれたら良いと思いま

す。あと一歩の何かをつかむ

ために苦闘する過程がとても

大切だと思います。また、そ

のように行動を起こすこと自

体が、良い方向に向かっている

ということでもあるのではない

かと思っております。前向きに

やっていたらいいれば、必ず

いつかは一つひとつと成果は

出てくるのではないでし

ょうか。

沖田 そうですね。今後は更

に、様々な面で私達自身が太陽

のように輝いて、皆に希望を持

編集後記

京丹後青年会議所新聞の新春号を発行するにあたり、ご協力を賜りました皆様方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。広報委員会では、この京丹後青年会議所新聞を発行することで、私達の活動を地域の方々に少しでも知って頂き、市民の方々と手を取り合っ

て共にまちづくりを行なっていくための一つのきっかけにしたいと考えております。次号は7月と12月にも発行を予定しておりますので、是非ご覧頂きたく思います。今後とも京丹後青年会議所新聞を何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、2012年が皆様方にとりまして辛

多き年になりますよう心よりお祈り申し上げ、広報委員会からの編集後記とさせていただきます。

本年度、(社)京丹後青年会議所では「JCプレス」を京丹後市のご家庭に新聞折込させていただきます。

※季刊誌として年内3回発行(1月・7月・12月)を予定

記事に関するご意見、ご質問等ございましたら(社)京丹後青年会議所/広報委員会までお寄せください。

〒627-0041 京丹後市峰山町菅373番地 ふきあげビル4階41号

TEL.0772-62-3153 FAX.0772-62-3120

info@kyotangojc.com

www.kyotangojc.com

京丹後JC WEB 京丹後JC 検索

2012年度 社団法人 京丹後青年会議所 役員

| | |
|-----------|-------|
| 理事長 | 沖田真奈美 |
| 直前理事長 | 廣瀬雅也 |
| 副理事長 | 水田博基 |
| 副理事長 | 金盛将士 |
| 副理事長 | 由利彰基 |
| 専務理事 | 小松悦之 |
| 専務理事 | 平林巧 |
| 広報委員長 | 水戸照人 |
| 研修委員長 | 松田国男 |
| ネットワーク委員長 | 吉岡信勝 |
| 青少年育成委員長 | 野木教貴 |
| 事務局長 | 好井孝夫 |
| 監事 | 友田幸徳 |
| | 三木健徳 |

「一生の友に出会える」人は誰でも、悩み判断に迷う時には誰かに相談したくなるもの。それが会社経営のことなら尚更だ。そんな時、自分と同じ立場で相談できる友がいる。それだけでもきっとあなたは救われるはず。かけがえのない一生の友ができる。あなたの入会をお待ちしています。